

いきいき まえばし人

好きだからこそ努力を



ソフトテニス全日本U-14代表

佐々木 聖花さん・14歳
下小出町二丁目

ソフトテニス全日本U-14（14歳以下）代表に選ばれた。「中学時代の一番の目標だったので、選ばれて光栄に思っています。代表選考の一つであった昨年11月のジュニアジャパンカップ（14歳以下の部門）でも優勝できたのも、大変うれしかったです」

ソフトテニスを始めたのは小4のとき。小5になるとスポーツ少年団の練習のほかに夜間の自主練習を行い、めきめきと上達する。県中学校総合体育大会では2年連続でベスト8入りし、関東大会に出場。現在も部活動の練習のほかに夜間練習も行う努力家。

「今、ソフトテニスが一番の楽しみなんです。テニスを通じていろいろな人と出会えることは、テニスの

プレーだけでなく、自分の人生においてもプラスになっていると思います」

遠征の時は、現地入りや身の回りのことなど、自分の責任で行うことになる。精神的にも成長するし、礼儀やマナーなども身に付くという。また、甘えが入らないように、一日の終わりにはノートに練習や生活について記録を付け、しっかりチェックすることも欠かさない。

現在、三中の3年。得意科目は体育。体を動かすことが好きという。「国際大会の代表に選ばれると、ユニホームに国旗がつくんです。日の丸を胸に試合に出てみたいですね。飛び切りの笑顔で話す中に、きりりとした信念が見える。才能を開花させ、世界へ羽ばたいてほしい。」

いにしえ 万華鏡 その十六

野辺の送りの供え物を現した

国指定重要文化財 舞台一号古墳出土品

問い合わせは 文化財保護課 ☎231-9531

荒子町の旧荒砥農協の北東300坪の台地上にあった舞台一号古墳。この古墳は平成2年のほ場整備事業の時に発掘調査され、直径34坪の円墳で5世紀後半に造られたことが分かっています。古墳の一角に長さ8坪幅10坪ほどの台形状の突出部があったことから、帆立貝式と呼ばれています。突出部は墓前祭などの祭祀行事が行われた場所。ここから、石や鉄で造られた模造品や土器が多数出土しました。



群馬県埋蔵文化財調査事業団提供
供物を表現した土器

石製の模造品は死者へのささげ物を石でかたどった祭祀道具で、げたや矢じり、かま、おの、とうすなどの生活用具が、長方形の箱状の入れ物に入った状態で出土。鉄製の模造品には、かまやおのなどの農耕用具がありました。黄泉の国への届け物だったのでしょうか。

最も注目されるのは、供物を表現した土師器と呼ばれる素焼きの土器が出土したことです。器の中には団子や四角い煮物などが粘土で表現されていました。これらの器は日常品ではなく、石や鉄で造られた模造品と共に葬送の儀式のためだけに特別に作られた物だったのです。残念ながら古墳は残っていませんが、出土品は古墳時代の死者を送る葬送儀礼の細部まで分かる貴重な資料として平成6年に国の重要文化財に指定され、県立歴史博物館で保管管理されています。

今も昔も変わらない死者への敬意や野辺の送り。やがては誰でも迎えることになるこの節目を少しでも考えてみる機会を与えてくれます。

グーゾアツプ



古墳時代を楽しく散策

6月13日、大室公園で大室古墳群公開イベント「赤城にまなぶ・大室にあそぶ」を開催しました。古墳見学会や勾玉作り・火おこし体験、古墳巡りスタンプラリーなどに多くの人が参加。広大な古墳群の中、古代の歴史について楽しみながら学びました。

6月18日、本市の友好都市であるアメリカ・メナーシャ市の中高校生8人が、交流事業で市立前橋高を訪問しました。茶道や弓道などの日本の文化を直接体験しました。生徒同士は身ぶり手ぶりを交じえて楽しく交流を深めました。



国際交流で友情を深めて



探検で知る下水道の仕組み

6月20日、六供町の水質浄化センターで一般解放を行いました。アジサイが見ごろを迎えた場内では、さまざまなイベントを実施。管廊探検では、普段入れない処理施設の中を歩いて巡り、楽しく下水道について学びました。

七夕の歴史と文化を学ぶ

6月19日から前橋文学館で「七夕びな雑きこうと乞巧でん」を開催。明治時代から今に残る七夕びなの展示や、七夕の起源ともされる、中国の年中行事を紹介。展示は7月11日まで行われます。

